



“健苗育成”と“適切な移植”で初期生育確保!

～ あわせて“初期病害虫・本田雑草防除対策”を徹底しよう!～

1. 育苗ハウスの後期管理

(1) 温度管理等

時期	終了段階の生育	温度管理		処理日数の目安
		昼間☀	夜間🌙	
硬化期	苗丈 12 cm、葉数 2.0 葉	15～20℃	10℃以上	12～13 日

硬化期は苗を外気温に慣らす時期です。かわいがり過ぎはダメですよ!



「8℃以下の低温(→ムレ苗)」や「日中の温度上昇(→徒長苗)」に注意!

※ 苗を自然環境に慣らすため、田植え前5日頃から夜間も換気して下さい。
(プール育苗: 低温・強風時以外は常時ビニールを開放)

(2) 水管理 1日1～2回 ※ 原則、昼頃までに実施する
(プール育苗: 湛水管理とし、田植えの2～4日前に落水する)

(3) 移植前追肥(弁当肥)

資材名	使用量		備考
	1箱当たり	10a当たり	
くみあい液肥2号	10g 以内	200g 以内	100 倍以上
輸入尿素	2g 以内	40g 以内	10a当たり 20 箱以内

※ 移植前4～5日頃(1.8葉期)に施用して下さい。ただし、軟弱・徒長苗には施用しない。(プール育苗: 湛水施用の場合は、2日間は落水しない)

2. 田 植 え

高温登熟による品質低下を回避するため、コシヒカリの田植期は5月10日以降を目安に、適正な栽植密度・植付本数・植付深さで早期に良質茎を確保しよう!

(1) 田植え時期

コシヒカリ → 5月10日以降
その他品種 → 5月 5日頃

植え傷みによる初期生育の停滞をさけるため、天候不順日、特に“低温・強風時”の移植は避けて下さい!

(2) 栽植密度 60 株/坪

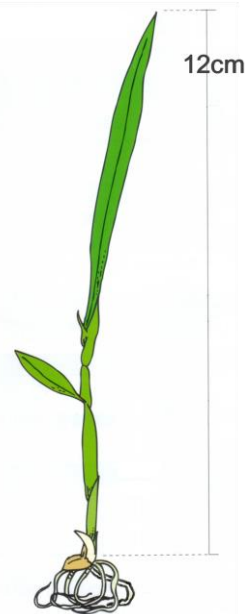
※ 転作あとや基盤整備あと、過剰生育が懸念される場合は、疎植(50株以下/坪)として下さい。

(3) 植付本数 3～4 本/株

特に、植付本数は入れ過ぎる傾向があるから、過繁茂防止のため確認しながら作業しよう!

(4) 植付深さ 3 cm 程度の浅植え

稚苗できあがり図



苗丈 12 cm
葉数 2.0 葉

3. 初期病害虫防除対策

フタオビコヤガ等が本田で発生した場合は薬剤防除ができないので、必ず育苗箱処理を実施しよう!

資材名	適用病害虫名	使用量	使用時期
フェルテラ箱粒剤	フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネドロオウムシほか	50g/箱	播種前(床土混和)、播種時、覆土前～移植当日
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	いもち病、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネドロオウムシほか	50g/箱	緑化期～移植当日

※ いもち病の常発地域、発生しやすいほ場・品種については、Dr.オリゼフェルテラ粒剤(使用時期: 緑化期～移植当日)を活用し、いもち病予防に努めて下さい。⇒ 初発前に確実に防除ができます!
※ Dr.オリゼフェルテラ粒剤を使用した場合、フェルテラ箱粒剤と本田防除のオリゼメート粒剤は使用できません。

4. 本田雑草防除対策

1 本田除草剤の登録内容と使用時期の確認

安定した除草効果を得るためには、使用時期の中で決められた雑草葉齢までに使用する必要があります!

(1) 本田除草剤(初期剤・初中期一発剤)の登録内容

使用区分	使用資材名	使用量	使用時期	処理限界葉齢	
				ノビエ	ホタルイ
初期処理	メテオ 1キロ粒剤	1kg/10a	植代後～移植7日前、移植時、移植直後～移植後30日まで	1葉期	発生初期
	フロアブル	500ml/10a			
初中期一発処理	ウイナー 1キロ粒剤	1kg/10a	移植時、移植直後～移植後30日まで	2.5葉期	2葉期
	フロアブル	500ml/10a			
	ジャンボ 10個(500g)/10a	10個(500g)/10a			

(2) 雑草の生育(目安)

雑草の発生は“代かき後”から始まります!

① ノビエ(温暖地)

休眠中	鞘葉期	1葉期	1.5葉期	2葉期	2.5葉期	3葉期
代かき後日数		7日	7～10日	10～15日	12～20日	15日～

② ホタルイ

休眠中	1葉期	2葉期	3葉期	4葉期	花茎抽出
代かき後日数	5～7日	10～12日	12～15日	18日～	



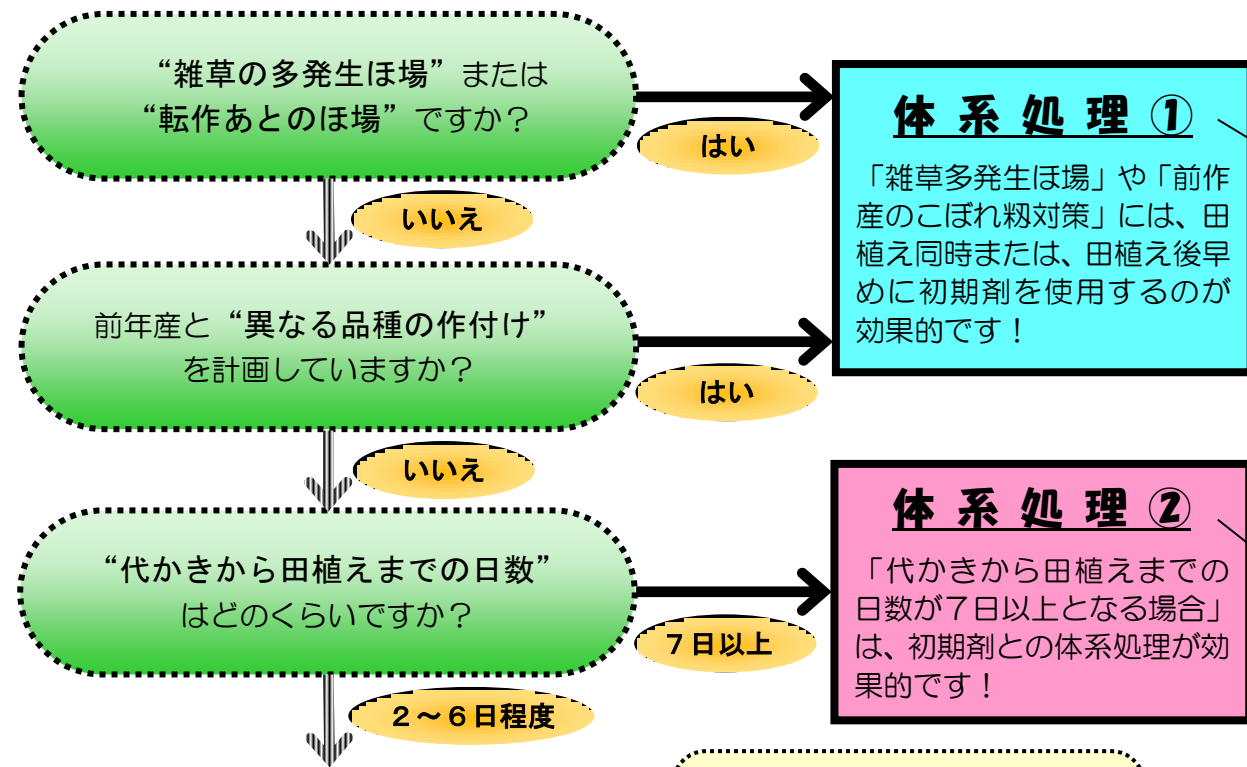
(3) 代かき後日数と本田除草剤（初期剤・初中期一発剤）の処理時期限界の目安

ノビエ(葉数)		ホタルイ (葉数)	代かき後 日数	
温暖地	暖地			
		0.5~1.0	5	メテオ(粒剤・フロアブル)の処理限界 ノビエ:1葉期まで ホタルイ:発生前~発生始期まで
1.0~1.5	1.2~1.8	1.0~1.5	7	
1.5~2.0	2.0~2.1	1.5~2.0	10	ウィナー(粒剤・フロアブル・ジャンボ)の処理限界 ノビエ:2.5葉期まで ホタルイ:2葉期まで
1.5~2.5	2.7~2.8	2.0~3.0	12	
2.0~3.0	3.3~3.5	3.0~3.5	15	
2.5~4.0	4.0~4.3	3.5~4.5	20	
		4.5~5.0	25	

雑草の生育(代かき後日数)を考慮して、早めに除草剤を使用することが重要です!



2 除草体系の検討



①ほ場条件(土性、水持ち、作付体系、作付品種の切替、雑草の種類)、②作業体系(代かきから移植までの日数)、③難防除・特殊雑草への対応を考慮して除草体系を検討しよう!



《難防除・特殊雑草等への対応》

- ◇ クログワイ、オモダカ
発生時期が長期にわたるため、多発する水田では後期剤(ハサグラン)による体系処理を基本とし、かつ数年間(3~4年)連用する。
- ◇ ヒエの残草、広葉、多年生の後発雑草
「初中期一発剤の適期・適正散布と合わせて、小ヒビ中干しと中干し後の飽水管理の徹底により土壌水分を維持し、除草効果の急激な低下を防ぐ」ことを基本とし、発生がみられた場合は雑草の種類・葉齢に合わせて後期剤(クリンチャー・ハサグラン)による体系処理を実施する。
- ◇ 藻類、表層はく離
概ね田植え後1週間頃から発生が目立ち始めるため、「発生前までに初中期一発剤(ウィナー)を散布する」ことを基本に、発生が見られた場合は、夜間落水などの定期的な水更新を実施する。

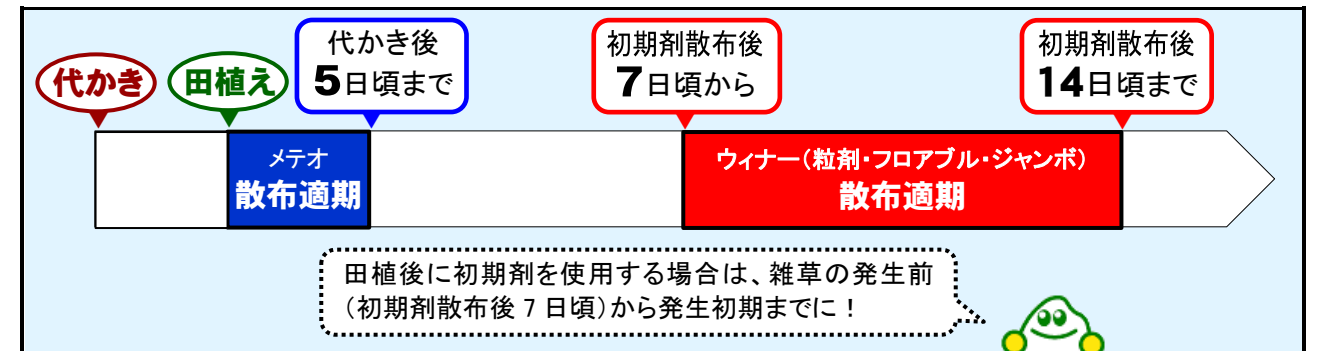
3 本田除草剤(初期剤・初中期一発剤)の散布適期の確認

「登録の範囲内のできる限り雑草の小さいうちに確実に防除します！」
→ 近年は、田植え後の高温傾向により、雑草の生育や藻類・表層はく離の発生時期が早まっています。下図を参考に、散布適期の範囲内における早め(雑草・藻類の発生前から生育初期)の除草剤使用により、雑草の発生防止に努めて下さい。

1 一発処理パターン



2 体系処理パターン①: 田植え後(田植え同時)に初期剤(メテオ)を使用する場合



3 体系処理パターン②: 代かきから田植えまでの日数が7日以上となる場合



※平成27年産から初中期一発除草剤がウィナーに変わりました。作業計画・ほ場条件等を把握し適期散布を心掛けましょう。(別紙“初中期一発除草剤の上手な使い方”を参考にしてください)

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報: 4月下旬「田植え後の水管理、本田雑草防除、葉いもち・カメムシ対策」(予定)